

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	149200027	事業の開始年月日	平成18年6月1日
		指定年月日	平成18年6月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家 横浜羽沢		
所在地	(221-0063) 神奈川県横浜市神奈川区羽沢町1652 - 12		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和7年10月11日	評価結果 市町村受理日	令和8年3月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年の8月に今まで使用していた事業所理念を一新し、全職員と新しい理念を作り、「その人『らしさ』の尊重 とともに共感 とともに感動」としました。今まで使用してきた理念も引き続き念頭おき、さらにホームに携わるすべての方が笑顔で生活して頂けるよう日々努め、サービスを提供してまいります。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年11月5日	評価機関 評価決定日	令和8年2月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR横浜駅西口より相鉄バスを利用し、バス停「菅田中学校前」下車後、徒歩3分ほどの高台に位置しています。近隣にある同法人の2事業所とは、運営推進会議や行事を共同で開催するなど、相互に連携を図りながら運営しています。

<優れている点>

開設20周年に向け、全職員の参画による新しい事業所理念を策定しています。「見すぐに伝わる簡潔な文言」を目指し、職員全員が大切にしたい言葉や目指すべき到達点を提案し、話し合いを重ねています。自分たちで作らげた理念を掲げることで、職員の利用者への向き合い方が深化しています。また、身体拘束適正化や虐待防止対策、BCP（業務継続計画）策定など制度上の重要事項に真摯に取り組んでいます。特に生産性向上については、いち早く委員会を設置して介護記録ソフトや職場環境の検証の実施を開始しており、運営の効率化と支援の質向上に繋がる先進的な姿勢が評価されます。

<工夫点>

「会議に出ているだけでは、出席したとは言えない」との言葉を前管理者から受け継ぎ、フロア会議では議案の事前協議と職員へのアンケート実施を励行すると共に、出席者の主体的な発言を促しています。また、日々の支援で疑義が生じた際は、随時職員間でミニカンファレンスを行い解決を図るなど、現場の気づきを共有し、対応を決定する体制を整えています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家 横浜羽沢
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	先日事業所理念を見直し、その理念を実行するべく全職員が業務にあたっている	開設以来20年の事業所理念を本年9月から、新理念「その人『らしさ』の尊重 とともに共感 とともに感動」に変更しています。新理念作成に当たっては全職員が参加し、それぞれの意見や思いを取り入れています。利用者 と触れ合う時間を大事にし理念の実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今後事業所のイベント等を通じて地域交流、近隣住民交流の機会を作りたい	事業所の立地的な状況から、地域交流が難しい面があります。現在、地域行事への参加や事業所行事への参加、ボランティアや以前あった近隣の小・中学校との交流などがなく今後の課題としています。	立地的に難しい面がありますが地域交流に向けて努力されることや事業所行事への声掛け、ボランティアの導入、小・中学校との交流などに取り組まれることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポーター養成講座への職員の受講、家族様の面会時などに認知症についての情報共有をはかっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議や家族様が面会にいらしたときに認知症について情報共有を行っています	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催しています。事業所の現況や活動状況、健康管理、事故・ヒヤリハットの内容、改善策、情報交換、意見交換を行っています。9月の会議では新しく策定した「事業所理念」について説明をしています。	運営推進会議は定期的に開催されていますが、今後は家族の参加を促すなど内容の活性化が求められます。あわせて、行政への議事録提出を確実に実施し、外部との連携や運営の透明性をさらに高めていくことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議にて地域包括支援センターとともに連携を取っています	地域包括支援センター若竹苑とは、運営推進会議への参画を通じて情報共有と連携を図っています。介護認定の更新手続きに際しては、事業所側で必要書類を作成し、家族が申請を行うといった協力体制としています。なお、現時点において行政への困難事例に関する相談や事故報告はありません。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化検討委員会を年4回、身体拘束等の適正化の為の研修を年2回行い、出席できない職員は後日会議録を確認してもらっています	委員会や研修の議事録は全職員に回覧し周知を図っています。研修実施後の理解度テストや、年1回の「自己チェックリスト」を用いた職員会議での振り返りを通じ、拘束を必要としないケアの定着を確認しています。また、常勤職員が交代で内部研修の講師を務めることで、職員一人ひとりが当事者意識を持ち、専門性の向上と自己啓発に努める体制を構築しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待委員会を年3回、高齢者虐待防止のための研修を年2回行い、出席できない職員は後日会議録を確認してもらっています	委員会の議事録や研修内容は全職員で回覧し、周知を図っています。研修後の理解度テストや、年1回の「自己チェックリスト」を用いた振り返りを通じて、職員の意識定着を確認しています。また、管理者は日頃から職員とのコミュニケーションに努め、個々の体調や精神面などの状況把握を行うことで、虐待を未然に防ぐための職場環境づくりに努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	まだ、実際に活用したケースはありませんが、会社の研修で権利擁護にかんする制度を学ぶ研修があります。書面にて職員に周知するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	各契約時に時間をかけきちんと説明を納得して頂けるように努めています。契約時以降も質問等はその都度対応しています		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話や面会時にご意見ご要望があればお聞きし、スタッフ会議などで話し合い、改善できるところは改善しています	面会時や電話連絡の際に、家族の意見や要望を聞く機会を設けています。「外出をさせてほしい」といった要望に対し、利用者の体調や気候条件を考慮した上で対応し、個別ニーズの充足に努めています。また、一時中断していた家族会を今年度より再開することとしています。運営に家族の声を反映させる機会の拡充を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の各フロアの職員会議、年2回の個別面談を行い、意見を聞いています。また、日頃よりコミュニケーションを取っています	フロア会議では事前に議案を出すようにし、協議しています。管理者は出席者全員に発言を促し会議の活性化を図っています。新規入居者の決定には、ケアマネジャーなどの意見も聞いています。法人役員やエリアマネジャーが来所し職員と話す機会を持っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回人事考課を行ない、向上心を持って働ける環境、条件の整備を行っている。職員の資格取得に向けた支援も行っています。	人事考課や個人面談を行うと共に、資格取得を勧め職員のモチベーションアップにつなげています。資格取得については費用の補助があり、資格に応じた手当の支給があります。勤務シフト、休日、休暇取得は職員の希望に応じています。決まった休憩時間も取っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	今年度より法人としてより研修に力を入れ、毎月研修を受ける機会を設けている	法人で経験や役割に応じた研修を実施しており、職員は研修計画に基づき受講しています。管理者は法人内外の研修の受講を推奨しています。新人の育成は、本部で研修後、事業所で熟練した技術や知識を持つ職員がつき本人の介護経験に応じ1週間から1ヶ月のOJTを行い育成しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	エリア会議等を通じ交流の機会を設けています		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の事前面談で生活状況を把握することに努め、入居後は会話などの時間を多くとり、本人様の様子を注意深く観察し、求めている事、不安に思っていることを理解するよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様、本人様と話し合いの場を設け、不安や要望をお聞きし、可能な限り対応し、よい関係を築けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用開始前に職員が面談に行き、状況、要望を確認している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	炊事、洗濯、掃除など職員と一緒にいき、感謝の子持ちを持つことでいい関係が築けている。利用者様との関係も職員が介入し、円滑な暮らしが出来るように支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ブログの案内や、月1回の手紙に写真を同封したり、電話や来訪時、様子を伝えています。また、電話があった場合は、電話にて利用者様と話が出来よう繋ぐなどの支援をしています		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人や友人との繋がりを継続できるように面会、手紙などの支援を行っています	近隣住民や教会の友人、かつての教え子など、入居前からの多様な人間関係を尊重し、来訪時には居室で気兼ねなく交流できるよう配慮しています。電話連絡の補助支援に加え、家族との外出や外食、墓参りへの同行支援などを実施しています。これまでの絆や社会的な役割が途絶えることなく、地続きの生活を継続できるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションやお手伝いを皆さんで楽しみながら行えるように雰囲気作りをし、利用者様同士の関係が円滑になるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了後、写真などが欲しいなどと問い合わせがあった場合は対応しています。また、転居後家族様から連絡を下さることもあり、その際は、親身になって対応、助言等を行っています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、表情や言動で把握するようにし、定期的にカンファレンスやモニタリングを行い、ご本人の意向がつかめるよう努力しています	「外に行きたい」「おいしいものを食べたい」と利用者が表出する時もありますが、言葉で表すことが難しくなってくると、これまでの利用者との関わりや日頃の利用者の様子から、職員が「この人だったら、こう思うだろう」と類推する場面が増えてきます。家族は「穏やかに過ごしたい、皆と仲良く健康的に暮らしたい」といった利用者の思いを感じ取り、代弁しています。職員と家族の双方が深く寄り添うことで、表出されない思いをも尊重しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に生活歴や環境を聞き取り、記録しています。入居後も家族様へのヒヤリングを続け、ホームでの支援に活用しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的なアセスメントや日々の生活記録にて把握し、職員間での申し送りは徹底し現状把握に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的カンファレンス、モニタリングを行ない、職員、家族様と話し合いの上、介護計画書を作成しています	ケアプラン更新期には生活に対する家族の意向を書面にて聞き取り、本人の意向とともにケアプランに反映させています。利用者の日々の小さな変化や思いをくみ上げるように心掛けており、介護記録の閲覧や申し送り、フロア会議では利用者の「今」を共有しています。多角的な視点を計画に活かすことで、状況の変化に応じたモニタリングを実践しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録、申し送り、申し送りノート参考に介護計画の見直しや日々のケアに活かしています。また、定期的カンファレンスを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	定期的カンファレンス、やスタッフ会議を行ない、サービス内容の検討、改善を行い、状況に応じた支援を行っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	安心して生活できるよう運営推進会などを通して意見交換が出来る場を設けています。またn天気の良い日には近所を散歩して近所の方との交流を図っています		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族様の了承を得て上でかかりつけ医の定期的な往診を行なって頂いています	市へ届け出た協力医療機関をかかりつけ医とする旨を契約時に説明し、本人や家族の同意を得ています。月2回の定期的な受診と訪問看護師による緊急時対応体制が構築していることは、家族や職員の安心感につながっています。また医師の診断に基づく他科受診の際には、家族の協力を得ており、医療・家族・事業所で利用者の健康を支えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携看護師が週1回来訪し、職員と利用者様の現状や変化に対して連携を取りながら現状に応じた対応、介護、診察を適切に受けられる様に努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームでの生活状況、支援内容などをサマリーにて情報提供を行っています。入院中、退院時は病院関係者、家族様と連絡を取り、退院後は安心してホームに戻って来ていただけるよう努めています		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重症化して際の対応を説明しています。本人様、家族様の意見を尊重し関係機関の協力得ながら最大限の支援が出来るよう努めています。	重度化対応と看取り指針は、あらかじめ契約時に重要事項説明書の別紙を用いて説明しています。その後、医師の判断と家族の同意を得て、看取りケアの開始となります。職員の多くが看取りの経験を積んでおり、利用者が最期までその人らしく過ごせることを主眼とした支援を目指しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDの設置とともに、緊急マニュアルを掲示し、24時間対応にて医師から随時指示を受ける体制になっています		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難経路の掲示に加え、防災訓練を年2回行い、地域との連携を図るために防災訓練に参加して頂いています。緊急時為に、飲料、食料等備えてあります。	立地特性を踏まえ、地震および火災発生時を想定した昼夜別の防災訓練を実施しています。利用者の参加を得て、階上への垂直避難や駐車場への屋外避難など、状況に応じた経路の検証を重ねています。また、地域共助の観点から近隣住民へ訓練への参加呼びかけを開始しました。地域との防災協定締結については、その重要性を認識しており、次期に向けた具体的な協議・実現を検討事項としています。	BCP（業務継続計画）は策定済みですが、内容の見直しにはまだ着手していません。巨大災害が頻発している昨今であり、早期のBCP精査とシミュレーションの実施が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	適切な接遇で対応し、職員の意識向上に努め、個人情報の取扱いには細心の注意を行っています。	事業所理念を一新しその周知徹底を図る中で、利用者と職員の会話が増えてきていると、管理者は実感しています。「その人らしさの尊重」との文言に常日頃から接するようになり、職員の変容を促しているようです。利用者の気持ちを受け止めるように努め、利用者への優しさを伝える言葉を選び、柔らかな表情で利用者を支援する、そういった職員一人ひとりの変化が職員間に波及しつつあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様との時間を増やし、意思表示が難しい利用者様に対しても、心の声が聞けるよう日々の様子観察に努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人1人のペースを大切に過ごして頂けるよう心掛け、希望に沿った支援を心がけています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の整容のお手伝いや、訪問理美容にて好みを尊重し、服装、髪型に出来るよう支援しています		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご自分で召し上がれるよう食器を工夫している。また準備、片付けはお手伝いが可能な方に行って頂いている。2～3ヵ月に1回程度出前などの普段と違った食事をお出ししています	日々の食事提供は、炊飯と湯煎調理で効率化を図る一方、手作りのおやつ提供や誕生会の特別メニューなど、食の楽しみを広げる工夫をしています。特にパンを好まれる利用者には、訪問する移動パン屋での「選ぶ楽しみ」を大切にしており、対話を楽しみながら翌日の朝食を選ぶ機会を設けています。また、外食チェーンのデリバリー活用など、日常とは異なる高揚感を味わえる機会を取り入れ、五感で味わう食生活の支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養価はメニュー表で把握し、摂取量、水分量は記録を残し把握していません。常食のほか、きざみ食・ペースト食・ムース食の提供が可能です。むせ込みや摂取が難しい方へはトロミ剤やゼリーの使用を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声掛け、介助にて実施し適宜義歯洗浄も行うとともに、週1回訪問歯科衛生士による口腔内の清掃、チェックを行って頂いています		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っています	「昨日は困難でも今日はできるかもしれない」という柔軟な視点を持ち、利用者の状態に対して先入観を持たない関わりを心掛けています。尿意の訴えや、衣類の着脱、手すりを利用した立位保持など、一連の排泄動作を分析し、断片的であっても「本人の力で取り組めること」を自立の芽として尊重しています。移動から洗浄、整容に至る各工程で、本人が自分で行えることを見極めて、声かけや支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	チェック表を活用し、排便状態を毎日確認し、便秘気味の方へ多めに水分を摂取して頂いたり、ヨーグルトめ仕上がって頂いています。また、排便コントロールを医師の指示のもと行っています		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調や気分に合わせています。入浴時は個々にゆっくりと時間をかけ、コミュニケーションをとるようにしています	入浴時のリラックスした環境は、利用者が幼少期の思い出や家族への思いを自然に語ることができる貴重な機会となっており、より深い利用者理解と信頼関係の構築につながっています。支援にあたっては「できること」を大切に、前面の洗浄を自ら行う人への見守りや、全身介助が必要な人への支援など、個々の状況に合わせた声かけをしています。浴槽のまたぎ越し介助から機械浴への対応まで、安全を最優先に確保しながら、心身ともに充足できる入浴支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様のペースに合わせて就寝介助を行っています。日中も短時間の休息の時間を作ったりしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師が週1回訪問し、薬の説明、指示を受けています。薬情ファイルは内容が確認出来るようにし、家族様へは月1回薬情を郵送しています。また定期的に主治医に服薬内容の相談をし、減薬などに努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	意思表示が難しい方へは、家族様から情報を頂き、職員側から提案させて頂いています		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	可能な限り散歩や外気浴で季節感を感じて頂けるように支援しています	日中、1フロア2名という限られた人員体制下でも、日々の散歩や外気浴を取り入れています。近隣の無人野菜売り場への往復など、のどかな田園風景の中で季節の移ろいを感じる機会を設け、心身のリフレッシュと生活の活性化につなげています。また、通院時だけでなく、お彼岸の墓参りや親族の冠婚葬祭といった家族との大切な外出機会についても、心待ちにしている思いに寄り添い、安全に実現できるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の管理する力に応じて対応しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人からの希望時はもちろん、定期的に家族様やご友人に電話をしております。手紙も施設に届いたものは、随時本人様へお渡ししています		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔を保ち、共用部では、季節に合わせた壁装飾を行ない、テレビや音楽を流しています。温度調節は職員が随時調節しています	行事に応じた季節感溢れる装飾を先取りして施し、視覚的にも活気と楽しみを感じられるフロア運営を行っています。環境面では、強い日差しが差し込む南側の窓に薄手のカーテンを設けるなど採光を調整し、リビングが落ち着いた色彩に保たれるよう配慮しています。また、共有スペースの一角に一人で過ごせるソファ席を設けるなど、集いと休息の調和が取れた居心地の良い空間を提供しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル席の移動の希望はなるべく対応し、定期的に変えています。ソファを設置し、思い思いの形で利用されています		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お好きな物や思い入れのものをお持ちいただき、タンスの上に置かれている。また、室温管理、清潔に努め、居心地がいい環境を心がけている	本人の心のよりどころとなる家族写真など、私物持ち込みを推奨し、それらが職員との対話を広げる大切なきっかけとなっています。居室ドアの小窓には、職員手作りのフェルト製ミニ暖簾を設置することで、外からの光を和らげるとともに、プライバシーを保護する温かみのある環境を整えています。また、安全面ではベッドセンサーやナースコールを配置し、個人の空間を尊重しつつ、転倒防止に向けた対応体制を両立させています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自分の居室の整理整頓をして頂いたり、掃除をしたり、飾りつけをすることで、自立した生活が出来るよう努めている		

事業所名	グループホームみんなの家 横浜羽沢
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	先日事業所理念を見直し、その理念を実行するべく全職員が業務にあたっている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今後事業所のイベント等を通じて地域交流、近隣住民交流の機会を作っていきたい		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポーター養成講座への職員の受講、家族様の面会時などに認知症についての情報共有をはかっていきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議や家族様が面会にいらしたときに認知症について情報共有を行っています		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議にて地域包括支援センターとともに連携を取っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化検討委員会を年4回、身体拘束等の適正化の為の研修を年2回行い、出席できない職員は後日会議録を確認してもらっています		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待委員会を年3回、高齢者虐待防止のための研修を年2回行い、出席できない職員は後日会議録を確認してもらっています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	まだ、実際に活用したケースはありませんが、会社の研修で権利擁護にかんする制度を学ぶ研修があります。書面にて職員に周知するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	各契約時に時間をかけきちんと説明を納得して頂けるように努めています。契約時以降も質問等はその都度対応しています		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話や面会時にご意見ご要望があればお聞きし、スタッフ会議などで話し合い、改善できるところは改善しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の各フロアの職員会議、年2回の個別面談を行い、意見を聞いています。また、日頃よりコミュニケーションを取っています		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回人事考課を行ない、向上心を持って働ける環境、条件の整備を行っている。職員の資格取得に向けた支援も行っています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	今年度より法人としてより研修に力を入れ、毎月研修を受ける機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	エリア会議等を通じ交流の機会を設けています		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の事前面談で生活状況を把握することに努め、入居後は会話などの時間を多くとり、本人様の様子を注意深く観察し、求めている事、不安に思っていることを理解するよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様、本人様と話し合いの場を設け、不安や要望をお聞きし、可能な限り対応し、よい関係を築けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用開始前に職員が面談に行き、状況、要望を確認している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	炊事、洗濯、掃除など職員と一緒にいき、感謝の子持ちを持つことでいい関係が築けている。利用者様士の関係も職員が介入し、円滑な暮らしが出来るように支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ブログの案内や、月1回の手紙に写真を同封したり、電話や来訪時、様子を伝えています。また、電話があった場合は、電話にて利用者様と話が出来よう繋ぐなどの支援をしています		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人や友人との繋がりを継続できるように面会、手紙などの支援を行っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションやお手伝いを皆さんで楽しみながら行えるように雰囲気作りをし、利用者様同士の関係が円滑になるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了後、写真などが欲しいなどお問い合わせがあった場合は対応しています。また、転居後家族様から連絡を下さることもあり、その際は、親身になって対応、助言等を行っています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、表情や言動で把握するようにし、定期的にカンファレンスやモニタリングを行い、ご本人の意向がつかめるよう努力しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に生活歴や環境を聞き取り、記録しています。入居後も家族様へのヒヤリングを続け、ホームでの支援に活用しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的なアセスメントや日々の生活記録にて把握し、職員間での申し送りは徹底し現状把握に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的カンファレンス、モニタリングを行ない、職員、家族様と話し合いの上、介護計画書を作成しています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録、申し送り、申し送りノートを参考に介護計画の見直しや日々のケアに活かしています。また、定期的カンファレンスを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	定期的カンファレンス、やスタッフ会議を行ない、サービス内容の検討、改善を行い、状況に応じた支援を行っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	安心して生活できるよう運営推進会などを通して意見交換が出来る場を設けています。またn天気がいい日には近所を散歩して近所の方との交流を図っています		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族様の了承を得て上でかかりつけ医の定期的な往診を行なって頂いています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携看護師が週1回来訪し、職員と利用者様の現状や変化に対して連携を取りながら現状に応じた対応、介護、診察を適切に受けられる様に努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームでの生活状況、支援内容などをサマリーにて情報提供を行っています。入院中、退院時は病院関係者、家族様と連絡を取り、退院後は安心してホームに戻って来ていただけるよう努めています		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重症化して際の対応を説明しています。本人様、家族様の意見を尊重し関係機関の協力得ながら最大限の支援が出来るよう努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDの設置とともに、緊急マニュアルを掲示し、24時間対応にて医師から随時指示を受ける体制になっています		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難経路の掲示に加え、防災訓練を年2回行い、地域との連携を図るために防災訓練に参加して頂いています。緊急時為に、飲料、食料等備えてあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	適切な接遇で対応し、職員の意識向上に努め、個人情報の取扱いには細心の注意を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様との時間を増やし、意思表示が難しい利用者様に対しても、心の声が聞けるよう日々の様子観察に努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人1人のペースを大切に過ごして頂けるよう心掛け、希望に沿った支援を心がけています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の整容のお手伝いや、訪問理美容にて好みを尊重し、服装、髪型に出来るよう支援しています		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご自分で召し上がるよう食器を工夫している。また準備、片付けはお手伝いが可能な方に行って頂いている。2～3ヵ月に1回程度出前などの普段と違った食事をお出ししています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養価はメニュー表で把握し、摂取量、水分量は記録を残し把握していません。常食のほか、きざみ食・ペースト食・ムース食の提供が可能です。むせ込みや摂取が難しい方へはトロミ剤やゼリーの使用を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声掛け、介助にて実施し適宜義歯洗浄も行うとともに、週1回訪問歯科衛生士による口腔内の清掃、チェックを行って頂いています		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	チェック表を活用し、排便状態を毎日確認し、便秘気味の方へ多めに水分を摂取して頂いたり、ヨーグルトめ仕上がって頂いています。また、排便コントロールを医師の指示のもと行っています		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調や気分に合わせています。入浴時は個々にゆっくりと時間をかけ、コミュニケーションをとるようにしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様のペースに合わせて就寝介助を行っています。日中も短時間の休息の時間を作ったりしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師が週1回訪問し、薬の説明、指示を受けています。薬情ファイルは内容が確認出来るようにし、家族様へは月1回薬情を郵送しています。また定期的に主治医に服薬内容の相談をし、減薬などに努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	意思表示が難しい方へは、家族様から情報を頂き、職員側あら提案させて頂いています		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	可能な限り散歩や外気浴で季節感を感じて頂けるように支援しています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の管理する力に応じて対応しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人からの希望時はもちろん、定期的に家族様やご友人に電話をしています。手紙も施設に届いたものは、随時本人様へお渡ししています		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔を保ち、共用部では、季節に合わせた壁装飾を行ない、テレビや音楽を流しています。温度調節は職員が随時調節しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル席の移動の希望はなるべく対応し、定期的に変えています。ソファを設置し、思い思いの形で利用されています		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お好きな物や思い出のものをお持ちいただき、タンスの上に置かれています。また、室温管理、清潔に努め、居心地がいい環境を心がけている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自分の居室の整理整頓をして頂いたり、掃除をしたり、飾りつけをすることで、自立した生活が出来るよう努めている		

2025年度

事業所名 グループホームみんなの家横浜羽沢
作成日：2026年 3月 3日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	BCP（業務継続計画）は策定済みですが、内容の見直しにはまだ着手していません。巨大災害が頻発している昨今であり、早期のBCP精査とシミュレーションの実施が期待されます。	BCP（業務継続計画）の内容を見直しブラッシュアップしていく。また、精査とシミュレーションの実施を定期的に行っていく。	BCP（業務継続計画）の見直しについて委員会があるので話し合いを行う。そして精査と想定した状況のシミュレーションを定期的に行う。	1 2 ヶ月
2	3	運営推進会議は定期的開催されていますが、今後は家族の参加を促すなど内容の活性化が求められます。あわせて行政への議事録提出を確実に実施し、外部との連携や運営の透明性をさらに高めていく事が期待されます。	今後はご家族様への参加を積極的に声掛けしていきたい。	ご家族様の都合に合わせた日程調整など当面の間把握するのに時間が掛かると思われる。なかなかホームに來られないご家族様もいらっしゃるので、時間を掛けて都合の良い日をヒアリングしていきたい。	6 ヶ月
3	2	立地的な状況から地域交流が難しい面がありますが地域交流に向けて努力されることや事業所行事への声掛け、ボランティアの導入、小・中学校との交流などに取り組まれることが期待されます。	近隣の小・中学校へのアプローチを行っていき、またボランティアなどの導入を検討していきたい。	近隣の小・中学校へまずはアポイント・訪問を定期的に行い、また行事へ参加できるものがあれば提案を行いたい。ボランティアの導入はどのようなものがあるかをまずはリサーチする所から始めたい。	6 ヶ月
4	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々がほとんど来訪して来ない。	現状ではほとんどないので、各イベント毎に気軽に地域の人々がホームに来訪できるようにする。	地域の人々やご入居者様が楽しめるイベントを考える。そして、馴染みの方を増やしていきつつ機会を増やしていく。	1 2 ヶ月
5	18	利用者は、戸外の行きたいところへあまり出かけられていない。	ご家族様と定期的に話し合いながらご入所者様ご本人とお話を伺い、なるべく行きたいところへ行く事ができるようにする。	安全面を考慮しなければならない。決して無理のないような範囲でご家族様とプランニングを行う為に定期的に話し合いの場を設ける必要がある。	1 2 ヶ月